【小学校・４年・音楽・「旋律の特徴を感じとろう」】

Ｂ３（思考を深める学習）

育成を目指す資質・能力

旋律の特徴などと曲想との関わりについて考え、曲のよさなどを見いだしながら曲全体を味わって聴くことができる。

ＩＣＴ活用のポイント

【活用したソフトや機能】　プレゼンテーション機能

音源を取り入れた動画教材を学級全体と個人のそれぞれで視聴することで、児童の思考を促す。

学習の流れ

- 教材を音源のみで聴き、知覚・感受したことを発表し合う。
- 知覚・感受したことが曲のどの部分になっているのか、動画教材をもとに確認する。
- 知覚・感受を深めるために、１人１台端末で動画教材を視聴する。
- 自分や友達が知覚・感受したことの共通点や相違点を出し合い、再度動画教材を視聴して曲全体を味わって聴く。

事例の概要

本題材は、音楽鑑賞にＩＣＴを活用した実践である。ＩＣＴの活用は、時間とともに消えていく音や音楽を視覚的に表すことが可能となり、児童の考えを共有する場面において旋律に視点をしぼることができる。本実践では、鑑賞教材に表されている主な旋律の流れが音楽に合わせて動くようにした動画と、全ての旋律を一覧にした図形楽譜のプリントを併せて使用することで、児童の思考を深めたいと考えた。

授業で使用した機器は、教師の提示する大型モニターと１人１台端末である。１人１台端末を活用することで、それぞれの児童が聴きたい旋律や確かめたい旋律を自由に、繰り返し聴くことが可能となる。それによって児童の思考が深まり、鑑賞の目標である「曲全体を味わって聴く」ことにつながるよう工夫した。

【小学校・４年・音楽・「旋律の特徴を感じとろう」】

【事例におけるＩＣＴ活用の場面①】

【事例におけるＩＣＴ活用の場面②】

ＩＣＴ活用のポイント

音楽の授業では、音や音楽が時間とともに消えてしまい、残らない点が課題となってきた。ＩＣＴの活用はその課題を補うことができると考える。

本実践では、鑑賞する際に「①音源のみ聴く」「②学級全体で動画を視聴」「③１人１台端末で動画を視聴」という３パターンの活動を取り入れた。①の活動後に意見を共有した際、友達の発言の中に出てくる「最初の部分」や「途中のところ」といった内容を確かめられるよう、②の活動を行う。さらにその中で「もう一度聴きたい」「友達の発言を確かめたい」という児童の要望を叶える形で③の活動を行った。このように、児童が自分の聴きたい旋律を何度も聴くことが可能となることで、知覚・感受を深めることにつながっていくと考えられる。実際に児童が主体的に鑑賞の活動に取り組む姿が見られた。

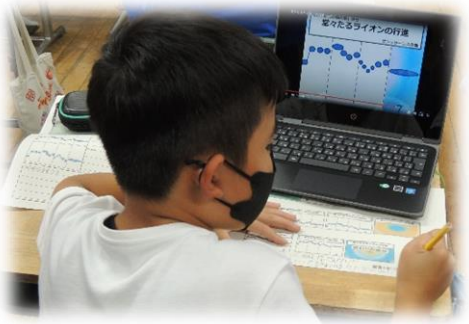
一方、１人１台端末の活用場面では、児童の活動の内容を教師が把握できないため、支援の難しさが課題となった。ＩＣＴを活用する際には、児童の発達段階に合わせてバランスよく取り入れていく必要がある。

ＩＣＴ活用事例　Ｂ３（思考を深める場面）

小学校４年・音楽科　「旋律の特徴を感じ取ろう」

使用機器：大型モニター、１人１台端末　　プレゼンテーションソフト

〈ＩＣＴ活用のポイント〉
①鑑賞教材の音源を取り入れた動画教材を、学級全体で大型モニターを用いて視聴したり、１人１台端末を用いて視聴したりし、児童の思考を促すことができる。
②音楽を視覚化した動画教材やワークシートを活用することを通して、児童の発言に表れる「曲の〇〇の部分」を共有し、楽曲への理解を深めることができる。



１　題材の目標

弾んだ感じや滑らかな感じ、音の上がり下がりなどの旋律の特徴などと曲想との関わりについて考え、曲や演奏のよさなどを見いだしながら曲想全体を味わって聴く。

２　題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
知　曲想と旋律の特徴や速度との関わりに気付いている。	思　旋律の特徴や速度、強弱などを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったことの関わりについて考え、曲や演奏のよさを見いだし、曲全体を味わって聴いている。	態　曲想やその変化と旋律の特徴との関わりに興味・関心をもち、曲のよさなどを見いだし、曲全体を味わって聴く学習に進んで取り組もうとしている。

３　題材について

本題材は、音楽鑑賞にＩＣＴを活用した実践である。ＩＣＴの活用は、時間とともに消えていく音や音楽を視覚的に表すことが可能となる。それにより児童の考えの共有場面において、旋律を根拠に話し合い活動を行うことができるようになる。

本実践では、鑑賞教材に表されている主な旋律を音楽と合わせて動いていく動画教材と、全ての旋律を一覧にした図形楽譜のプリントを合わせて使用することで、児童の思考を深めたいと考え、実践したものである。

授業で使用した機器は、学級全体で視聴するための大型モニターと、１人１台端末である。大型モニターの使用は、教師が意図的に聴き取らせたい旋律や感じ取らせたい旋律を確認することができる。また、１人１台端末を使用することで、それぞれの児童が自由に聴きたい旋律を聴くことができたり、友達の意見をもとに確かめたい旋律を繰り返し聴いたりすることが可能となる。それにより、楽曲への理解や児童の思考を深めたり、曲全体を味わって聴いたりすることにつながると考える。

４　指導と評価の計画（２時間）

時間	学習内容	評価の観点 ○指導に生かす評価 ◎記録に残す評価			備考
		知識	思考 判断 表現	態度	
1	・「白鳥」を音源のみで聴き、旋律の音の動きを感じる。 ・ＩＣＴを活用し、大型モニターで旋律の動きを確認したり、旋律の一覧表が示されているプリントを用いたりしながら、旋律の動きを確認する。 ・「白鳥」の旋律の特徴を感じ取って聴き、言葉などで表す。【１人１台端末使用】	○	○	◎	端末の基本操作や使用上の留意点は事前に指導をしておく。
2	・「堂々たるライオンの行進」を音源のみで聴き、旋律の音の動きを感じる。 ・ＩＣＴを活用し、大型モニターで旋律の動きを確認したり、旋律の一覧表が示されているプリントを用いたりしながら、旋律の動きを確認する。 ・「堂々たるライオンの行進」の旋律の特徴を感じ取って聴き、言葉などで表す。【１人１台端末使用】 ・「白鳥」「堂々たるライオンの行進」のどちらか一曲を選び、紹介文を書く。	◎	◎	◎	端末の基本操作や使用上の留意点は事前に指導をしておく。

５　ＩＣＴの効果的な活用について

音楽科の課題として演奏や鑑賞における音や音楽が時間とともに消えてしまうことが挙げられる。ＩＣＴの活用はその課題を補うことができるとともに、１人１台端末の使用により、より自由な鑑賞活動が可能となる。

本実践では、鑑賞をする際に「①音源のみ」で聴く活動を行い、友達の発言に表れる「最初の部分が…」「途中のところが…」を確かめられるよう「②学級全体で動画を視聴」する活動を行った。その中で、友達の気付きを確かめたり、何回もじっくり聴いたりしてみたいと声があがり、「③各自が１人１台端末で動画を視聴」する活動を取り入れた。

１人１台端末の活用は、学級全体で一斉に聴く活動ではできない「自分の聴きたい旋律を自由に聴くこと」が可能となる。授業では、児童が主体的に鑑賞に臨む様子がその姿からも感じられたり、図形楽譜を一覧に表したプリントに意欲的に記述したりする姿が見られた。一方、１人１台端末の活用場面では、児童が曲のどの部分を聴いているかを把握できないため、机間指導で児童の考えを見取ったり、支援したりすることに難しさを感じる部分もあった。１人１台端末における視聴と、学級全体で聴く活動をバランスよく使用することが望ましい。また、児童の発達段階に合わせて、記述する際は１人１台端末で行う方が効果的か、紙面への記述が適しているのかなどについても留意していきたい。